

食料科学委員会 畜産学分科会（第25期・第2回）
議事要旨

1. 日時 令和3年8月20日（金）13:00～15:00
2. 場所 ビデオ会議
3. 出席 眞鍋昇（二部会員）、枝重圭祐、柏崎直巳、木村直子、後藤貴文、
束村博子、遠野雅徳、山下恭広、吉澤緑（連携会員）、
菊地和弘（特任連携会員）
欠席 小澤壯行（連携会員）

4. 議事

以下の（1）～（2）は、眞鍋委員長の進行で行った。

（1）定足数の確認

11名が出席し、分科会は成立した。山下委員および菊地委員より、自己紹介を頂いた。

（2）前回（第25期・第1回会議）の議事録要旨案の承認

第25期第1回分科会の議事録要旨案を確認後、承認した。

（3）審議事項

A. 「対外報告」と「記録」の作成について

眞鍋委員長より、「対外報告」のトピックスとして、例えば1)家畜の飼育管理や繁殖など生産現場へのIoTの導入、AIの活用によるスマート畜産の現状と今後、2)日本の畜産におけるアニマルウェルフェアの在り方、3)環境保全と家畜生産・畜産業との調和、4)家畜伝染病の課題、などあるが、今回は後藤委員より提案された「我が国におけるグリーンデジタルによる食肉生産：持続的な放牧における食肉生産、環境保全とDXのポテンシャル（仮題）」（8月20日配信、資料8）について検討頂きたい旨の提案があった。協議後、テーマの方向性は概ね了承とし、コンテンツの内容を精査していく方向で、今後も継続して協議することとなった。

「記録」作成の準備状況について、木村委員より、第23～25期に実施済みの畜産学分科会主催（一部共催も含む）の公開シンポジウム16件の関連資料（要旨など）を収集中（日本畜産学会との共催分は全て入手済み）との報告があり、引き続き未収集の資料分も収集することが確認された。

B. 公開シンポジウムの開催について

後藤委員より、令和3年度内開催を目途に、公開シンポジウム「グリーンデジタルによる食肉生産：放牧による持続的な食料生産、環境保全とDXのポテンシャル

(仮題)」のWeb等での開催についての提案があった(8月20日配信、資料7)。内容は、2020年6月に日本が宣言した「2050年カーボンニュートラルへの挑戦」の実現に向け、経済産業省が各省庁と連携し策定した「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」(2021年6月)、農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略：2050年のカーボンニュートラルの実現 生物多様性の目標」(2020年12月)を踏まえ、日本の放牧産業の現状、海外の動向、放牧産業へのIoT導入などによる生産システムの構築(スマート化)などについて協議した。テーマの方向性は合意が得られたが、「アニマルウェルフェアの話題をいれてはどうか」、「適任の女性講演者がいる場合は講演者の男女比を考慮してはどうか」などの意見が出された。それらを踏まえ、後藤委員が、シンポジウムの構成や講演者を適宜再調整し、日程を決定後、趣意書の作成など進め、それをもとにしてオンラインにて議論を継続することが了承された。

眞鍋委員長より、各委員の所属学協会と連携した学術集会等での公開シンポジウムの開催や連携強化を、是非促進頂きたい旨述べられた。

(4) 報告事項

A. 畜産学アカデミーの活動

吉澤委員より、新アカデミー会員として、小泉聖一先生(日本大学・特任教授)、寺田文典先生(東北大学・教授)が承認されたこと、令和2年度の会計報告がなされた(8月19日配信、資料3および4)。また、日本畜産学アカデミー規約の第3条『この団体は日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会(以下畜産学分科会と称する)の委員並びに畜産や畜産学に関する有識者をもって組織する。』とあることから、畜産学分科会委員は、ご本人の承諾があれば、日本畜産学アカデミーの会員となる。新会員として、後藤和文先生、山下恭広先生、菊池和弘先生の推薦が提案され、ご本人の了承が得られたので、新会員となられた。財源の確保と活用の在り方など、意見交換がなされほか、畜産学分科会委員に畜産学アカデミー会員への推薦要件や手順などの周知のため、後日詳細情報をメールでアナウンスすることとなった。

B. 眞鍋委員長より、朝倉書店の農学体系での編集状況について、第25期中に発出予定である旨報告された。

4. その他

A. 以下の話題で、意見交換がなされた。

- ・一般の方々が、食品のゲノム編集に対するリテラシーを高めていく必要性。
- ・植物の農産物では比較的進んでいるゲノム編集について、家畜においても防疫や抗病性の向上、希少生物資源の種の保存などの目的とする遺伝子ノックアウトの必要性への理解。

- ・若手アカデミーの活動状況の報告（遠野委員）、女性研究者の参画推進の動向。
- ・若手の研究者・技術者の人材育成のための学官民で連携による環境作り、大学10兆円ファンド。
- ・日本のアカデミア会議における農学系研究のプレゼンス強化の必要性。

B．第3回畜産学分科会については、準備中の公開シンポジウムの開催日を踏まえ、改めて開催日の調整を行う。

配信資料：

- ・資料1：日本学術会議畜産学分科会（第25期・第2回）議事次第
- ・資料2：畜産学分科会第25期・第1回会議議事録要旨案
- ・資料3：日本畜産学アカデミー会員リスト（2021年8月20日現在）
- ・資料3：日本畜産学アカデミー令和2年度会計出納状況
- ・資料4：日本学術会議のより良い役割発揮に向けて（中間報告）
- ・資料5：8月19日開催第二部夏季部会資料1
- ・資料6：8月19日開催第二部夏季部会資料2 日本学術会議の在り方に関する政策討議
- ・資料7：公開シンポジウム提案書（案）
- ・資料8：対外報告のテーマ・構成の提案書
- ・参考資料：第25期畜産学分科会名簿

本分化会にあたっては、以下の職員が事務を担当した。

丸山 恵子 参事官（審議第一担当）付 第2部担当

以上